

6年

わたしの地図活用

## 地図帳から平和へ世界へ

広島市立五日市南小学校 周田 光芳

### 1 社会科的センスと地図帳

社会科で身につけさせたい力の一つに、資料活用能力がある。学習目標達成のために用意された各種資料を読み解き、そこからわかることを駆使して考えを深めることのできる力である。料理にたとえば、材料をよく吟味して、どんなメニューができるか考え出す力にあたる。

料理で食材をどのように活かすかは、調理人のセンスであるが、社会科で社会事象からどのような考えを導き出すかは、社会科のセンスだといえるかもしれない。子どもたちが社会科のセンスを高め、「公民的資質の基礎の獲得」に近づけることは、「公民＝シティズンシップ」の意義が問われている現代において喫緊の課題でもある。

社会科学習のセンスアップのために、ふだんから親しませておきたい方法の一つが、社会事象の情報Boxともいえる「地図帳」である。これをどう活用すれば効果的な学習が可能なのか、いくつか事例を紹介したい。

### 2 平和教育に地図帳も

広島市は平和教育のメッカであり、市内のどこの学校でも社会科や総合的な学習の時間などを使って平和学習をしている。見学や聞き取りがよく使われる方法だが、ここで地図帳を活用することもできる。

たとえば地図帳p.23「②広島市のようす」を使って被爆の実相とその後の復興を学ぶ場合である。はじめに、この地図から見つけたことを自由に発表させるとどうだろう。ほとんどの子どもが爆心地から半径2 km以内が壊



『小学生の地図帳』(初訂版) p.23

滅したと気づくはずである。しかし視点を變えて、「なぜこの範囲なのか。」を考えさせれば、新たな地図の見取りが生まれてくる。市内中心部だからわざとここをねらったと答えた子どもは、地図情報からこの範囲に市役所や県庁といった都市機能が集中していることを見取っている。またある子どもは、この範囲は東西北の三方向が山に囲まれていたからではないかと推測する。つまり地形を考えて意図的にここに投下されたということである。一方、戦後の発展を考えた子どもは、被爆で壊滅した半径2 kmの外側に目を向け、産業は臨海部に、住宅は交通網の整備と共に周辺部に、それぞれ広がっていることに気づくかも知れない。

このような発展的な地図の見取りができるようになれば、地理的要素にも着目したヒロシマの平和学習となり、地図の有効活用につながると思う。

### 3 地図から広がる楽しい社会科

6年生の国際理解単元では、授業の導入に世界の国名を選んで3×3の9ますに書くビンゴをすると楽しい。「今日はアジア州から出すよ。」などと条件を絞ることと、答えを首都名や緯度経度の位置で間接的に言うなどのくふうがあるともっと楽しくなる。ゲーム感覚であれば、みんな俄然のってくるものである。また地図帳p.61の経済や文化面での日本と世界の結びつきや、p.65の世界の国別統計なども、この単元ではフルに活用させたい。頼れる情報Boxとしての「地図帳」の面目躍如となれるようにしたいものである。